TV共聴用無停電電源供給器

NMPST1001

取 扱 説 明 書

目　次

安 全 上 の ご 注 意	2
はじめに	4
動 作 説 明	5
各 部 名 称 と 働 き	6
設 置 方 法	8
入 出 力 の 接 続 方 法	9
操 作 手 順	9
定 期 点 検	11
保 守 点 検	12
LED 表 示 と 推 定 要 因	13
蓄 電 池 の 交 換 方 法	14
仕　　様	16
そ の 他	17

・この度はTV共聴用無停電電源供給器をご採用いただき、
誠にありがとうございます。
・ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、
正しくご使用ください。
・お読みになった後は、いつでも読める所に必ず
保管してください。

日本アンテナ®
NIPPON ANTENNA

3172－3701A

安全上のご注意　　必ずお守り下さい

この取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害や損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくため、重要な内容を説明しています。

この取扱説明書をよくお読いただき、注意事項を必ずお守りいただきますようお願い申しあげます。

▼ 表 示 の 説 明

表　示	表　示　内　容　の　説　明
危険	「誤った取り扱いをしますと、人が死亡または重傷を負う可能性のあること」 を示しています。
注意	「誤った取り扱いをしますと、人が傷害[注1)]を受けたり、あるいは物的損害の発生が想定されること」を示しています。

注１）損害：治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などを指しております。

▼ 図 記 号 の 説 明

図　記　号	図　記　号　の　意　味
注 意	△　記号は注意（危険・警告）を促す内容を示します。 △　の中や近くに具体的な注意が描かれています。 例 感電注意
禁 止	⃠　記号は禁止（してはいけないこと）を示します。 ⃠　の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。 例 接触禁止
強 制	●　記号は強制（必ずすること）を示します。 ●　の中や近くに具体的な指示内容が描かれています。 例 接地する

安全上のご注意　　必ずお守り下さい

危険

表　示	表　　示　　内　　容
	● 蓄電池は⊕⊖端子間のショート(短絡)、分解、指定外の充電をしない。 ○ 蓄電池液の漏液、発熱、あるいは容器の破裂などの原因となります。
	● 蓄電池には希硫酸液が入っています、万一容器の損傷により希硫酸が流れた場合には皮膚や衣服に付着させない。 ○ 万一付着した場合は、直ちに多量の水で洗い流してください。
	● 通電部に手を触れない。 ○ 感電事故の原因になります。
	● 装置の取り付け、点検設備をするときは、必ず電源スイッチを切ってください。 ○ 感電の恐れがあります。
	● 機能アース端子は必ず接地してください。 ○ 万一漏電した場合、感電の恐れがあります。

注意

	● 交換部品は同一定格、タイプとし、新旧の部品を混ぜないでください。 ○ 火災の恐れがあります。
	● 本装置は国内で使用するＴＶ共聴用の仕様品以外の用途に使用しないでください。 ○ 国外で使用すると電圧、使用環境が異なり発煙、発火の原因となります。
	● 絶縁対策工具(スパナなど)を使用してください。 ○ 感電の恐れがあります。
	● 作業前に時計などの金属物を外してください。 ○ 感電、やけどの恐れがあります。
	● 蓄電池は定期的に交換してください。 ○ 交換が遅れますとバックアップ時間が著しく短くなるほか、液漏れ、発煙、発火により火災の原因となる恐れがあります。

免責事項について

本器以外の接続機器などの異常、故障に対する損害、その他二次的、三次的な波及損害を含む全ての損害の補償には応じかねます。

はじめに

▼ 概 要

・ 本器はTV共聴施設機器へ電力を供給するための無停電電源供給器で、常時は商用電源AC100Vを絶縁トランスに介し負荷へ電力を供給し、これと並行して蓄電池を充電します。

・ 台風、地震、送電線事故など停電になった場合、自動的にインバータが起動し、蓄電池の直流電力を交流電力に変換して負荷に給電を継続します。

・ 本器は、変圧器、インバータ、充電器および蓄電池などで構成し、これらを防雨構造のケースに収納した無停電電源供給器です。

▼ 特 長

・ 本器はセーフティ回路の採用により商用電源のみの運転にすることができ、コントロールユニットの保守や蓄電池の交換を無停波で実施できます。

・ 発動発電機のAC100Vを非常入力コネクタに供給することにより商用電源と同様の運転が可能です。
（12頁の“発電機入力方法”をご参照ください。）

・ 高い耐雷性を保有しています。
本器は高い絶縁耐圧とサージ電圧の減衰性能を有す耐雷型変圧器と、雷サージを阻止する高信頼の保安器により構成されており、雷の多い地域に於ける無停電電源供給器として最適です。
また、保安器はバリスタ３個により構成されており、AC100V入力端子台に取り付けられています。度重なる誘導雷により劣化または破損したときには容易に交換することが出来ます。
（交換部品としてご用命ください。）

・ 外部から動作状態を確認できます。
本体底面に設けたLED表示灯により、入力（緑色）、出力（赤色）、充電（橙色）の状態を外部から確認できます。

・ 電圧測定用のチェック端子を設けてあります。
内部パネルの「電圧測定端子」で、蓄電池電圧、蓄電池充電電圧、出力電圧をチェックすることができます。

・ 出力電流の測定用箇所が設けてあります。
トランスユニットの出力電流測定箇所でクランプオンタイプのテスターにより容易に測定することができます。

・ 添付品
① 密閉型小型シール鉛蓄電池（LHM-24-12/ 新神戸電機製）
② 蓄電池ケーブル　１セット
③ AC100V入力ケーブル（ビニールキャプタイヤ、Φ 2-2 芯/VCT0.75-2　3.0m）
１本／本体に取り付けて出荷します。
※上記はすべて本体に組み込まれております。
④ 出力用コネクタ　　NJW-202-PF10（七星科学研究所製）　１個

・ 別売品
AC100V非常用入力ケーブル（ビニールキャプタイヤ、φ 2-2 芯 /VCT2.0-2　5m）
型名/WCH0001（防水メタルコネクタ　－　AC125V/15A-3P 防水コンセント）

動 作 説 明

▼ 変 圧 器

常時は商用電力AC100Vを絶縁トランスに介して負荷へ給電すると同時に、
コントロール部の充電回路に電力を供給します。

▼ コ ン ト ロ ー ル 部

・ インバータ回路

スイッチング素子にMOS　FETを使用して蓄電池の直流を効率よく交流に変換する回路です。

・ 充電回路

商用電力受電時に蓄電池をフローティング充電して停電に備えます。

定電圧、定電流により蓄電池に最適な充電を行います。

充電電圧（温度補正回路付）・・・ DC27.3V ± 0.4V （ 25℃時　蓄電池電圧測定端子において）

定格充電電流・・・・・・・・・・DC0.6A±0.2A

・ 過放電防止回路

停電してインバータが動作中、蓄電池電圧を監視し、規定電圧以下になるとインバータを停止させます。一度インバータが停止しますと、商用電力が復帰して回路がリセットされるまでインバータは動作しません。

蓄電池過放電停止電圧・・・ DC21V ±1V以内（設定値）

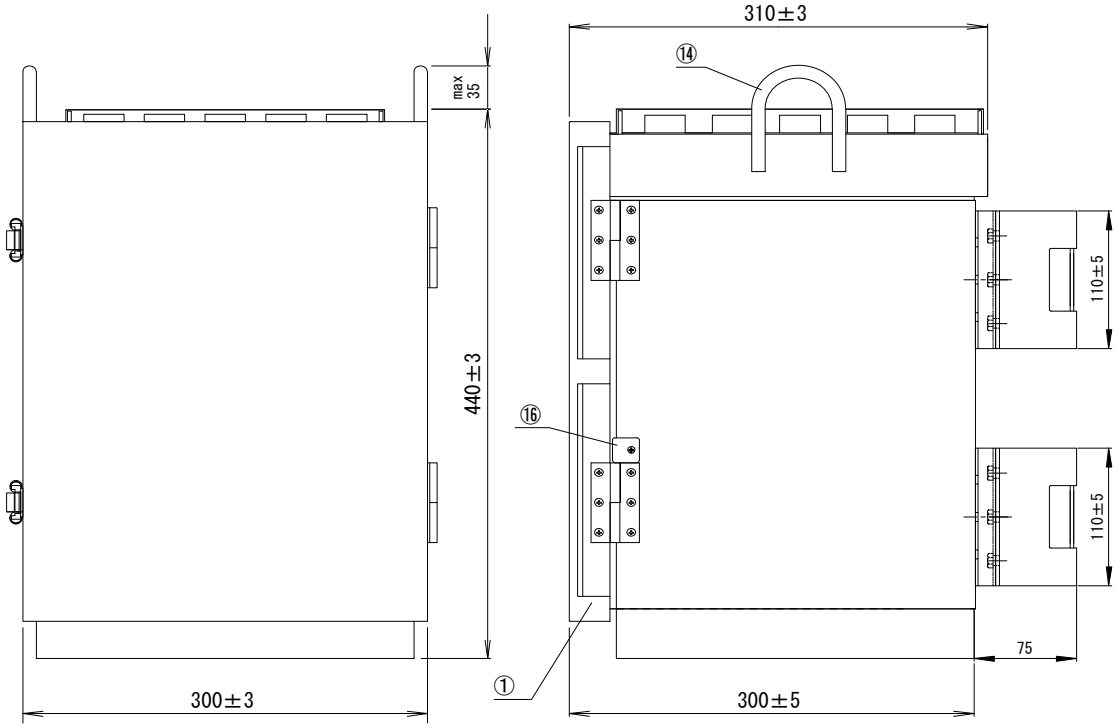
▼ 蓄 電 池

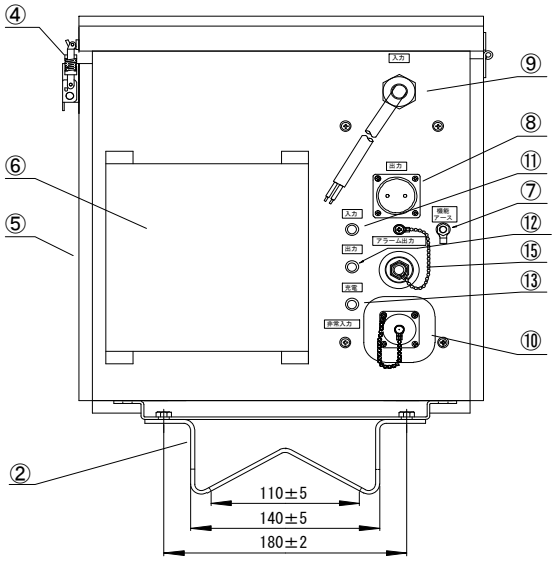
長寿命型シール鉛蓄電池を採用し本器使用で約10年の寿命が期待できます。シール型鉛蓄電池は面倒な補液などの保守は不要です。

フローティング充電を行い満充電状態を維持します。過放電防止回路が動作するまで放電した蓄電池を回復するまでに要する時間は約40時間です。

各 部 名 称 と 働 き

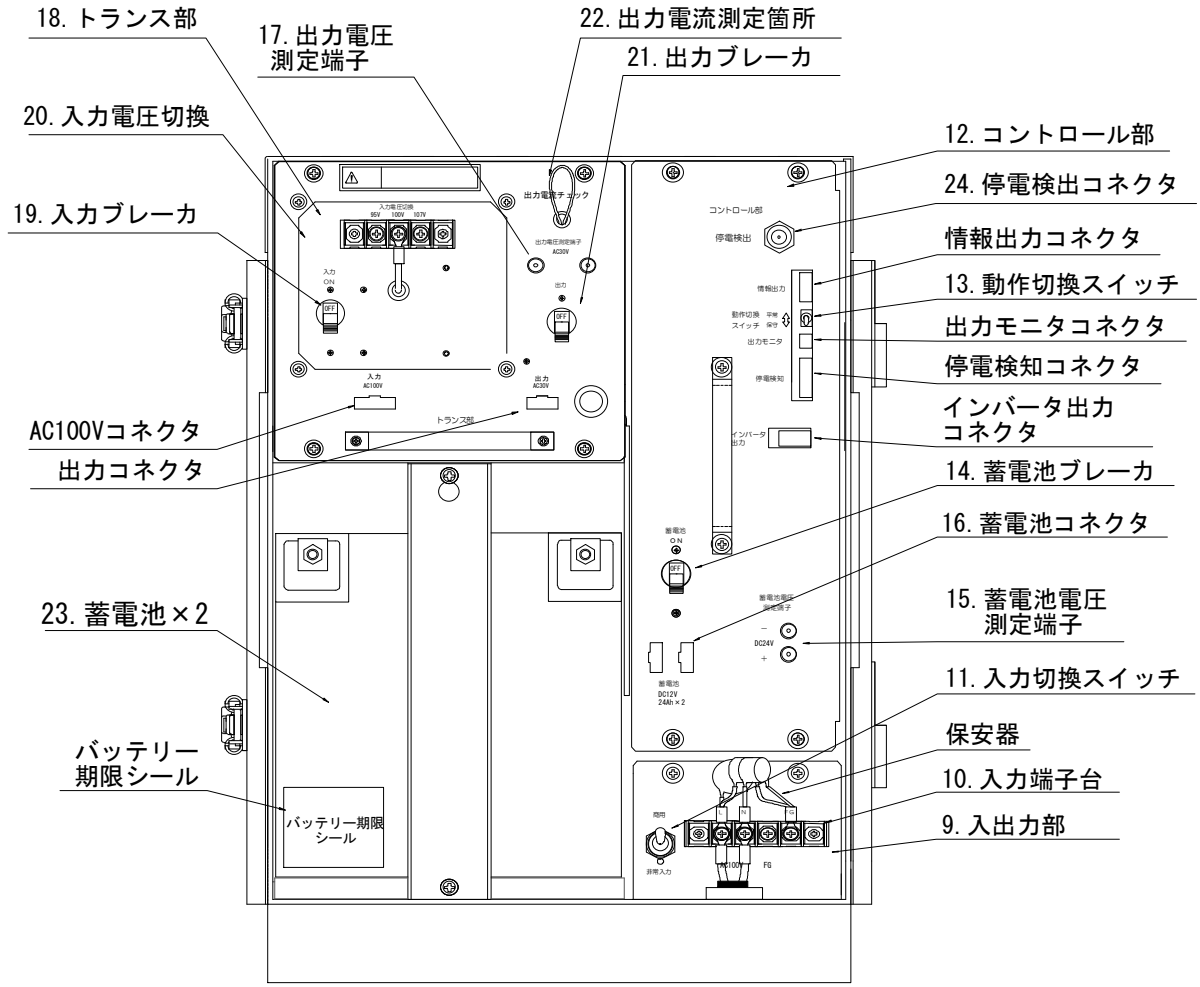
★ 外 観 図

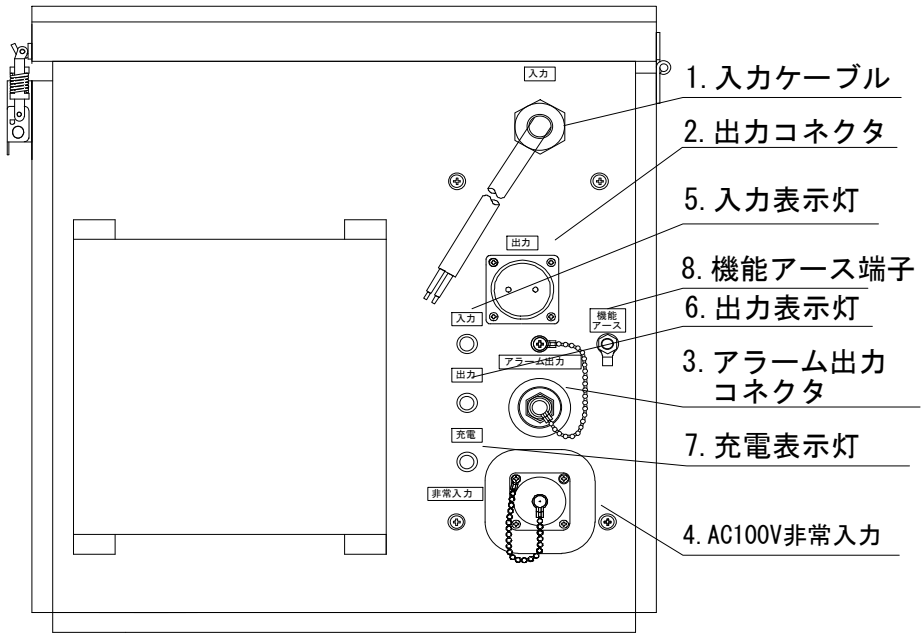




16	扉落下防止金具	SUS-304
15	アラーム出力	F-BR
14	吊りボルト	φ9 SUS-304
13	充電表示灯	LED 橙色
12	出力表示灯	LED 赤色
11	入力表示灯	LED 緑色
10	非常入力コネクタ	防滴型
9	入力ケーブル	VCT0.75-2 3.0m
8	出力コネクタ	防滴型
7	機能アース端子	M6SUS 圧着R5.5-6
6	通気孔カバー	SUS-304
5	日除け板	SUS-304
4	キャッチクリップ	SUS-304
3	蝶番	SUS-304
2	支柱取付金具	t3 SUS-304
1	開閉扉	SUS-304
項番	部 品 名	規 格

★ 内 観 図

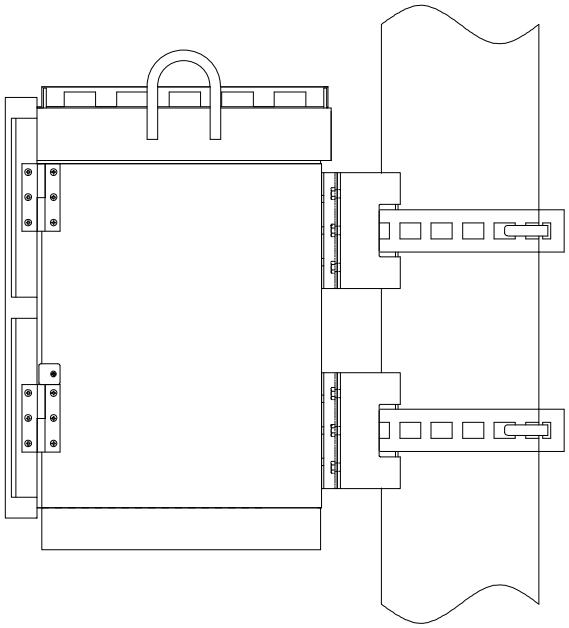

18. トランス部
17. 出力電圧
測定端子
22. 出力電流測定箇所
21. 出力ブレーカ
20. 入力電圧切換
19. 入力ブレーカ
12. コントロール部
24. 停電検出コネクタ
情報出力コネクタ
13. 動作切換スイッチ
出力モニタコネクタ
停電検知コネクタ
インバータ出力
コネクタ
AC100Vコネクタ
出力コネクタ
14. 蓄電池ブレーカ
16. 蓄電池コネクタ
15. 蓄電池電圧
測定端子
23. 蓄電池×2
11. 入力切換スイッチ
保安器
バッテリー
期限シール
10. 入力端子台
9. 入出力部
バッテリー期限
シール


1. 入力ケーブル
2. 出力コネクタ
5. 入力表示灯
8. 機能アース端子
6. 出力表示灯
3. アラーム出力
コネクタ
7. 充電表示灯
4. AC100V非常入力
入力
出力
機能
アース
アラーム出力
充電
非常入力

設 置 方 法

▼ 取 り 付 け 金 具

○M座取付型



注 意 ！

本器は自立柱および電力柱に取り付け可能です。
なお、本器は重量物（約 45kg）の為
安全対策に充分ご留意の上、自在バンド IBT を
使用してください。

入 出 力 の 接 続 方 法

※７ページの内観図を参照のこと

(1)　入力ケーブル1 をAC100V電源に接続します。入力端子台 10 で電源電圧を測定しAC100V± 10V を確認してください。
トランス部の入力電圧切換端子20を測定電圧に最も近い電圧端子に接続を換えてください。

危険	切換操作は入力ブレーカ19がOFFである事を確認した後、行なってください。 感電の恐れがあります。

(2)　出力のAC100Vは出力コネクタ 2 より出力されます。

(3)　アラーム出力は無電圧接点でアラーム出力3 のＦ型コネクタより出力されます。

危険	機能アース端子 8 を必ず接地してください。

操 作 手 順

※７ページの内観図を参照のこと

▼　運　転　開　始　の　手　順

(1)　入出力部の入力切換スイッチ11を商用側にします。入力表示灯 5 が点灯します。

(2)　動作切換スイッチ13が”平常”になっていることを確認の上、入力ブレーカ19をONにします。充電表示灯　7　が点灯し動作を開始します。蓄電池電圧測定端子15にて DC25V ± 1Vを確認してください。

(3)　蓄電池ブレーカ14をONにしますと、蓄電池23に充電が開始されます。蓄電池の電圧は蓄電池電圧測定端子15を利用して確認してください。充電表示灯 7 が消灯している場合には、蓄電池に充電されていませんので弊社支店または営業所までお問い合わせください。

(4)　出力ブレーカ21をONにします。
出力電圧測定端子17にて AC97V ～103V（入力AC100V時）を確認してください。
出力表示灯 6 が点灯し給電を開始します。もう一度、出力電圧測定端子17にて出力電圧 AC97V ～103Vの確認を行ってください。

危険	出力電圧が低く過ぎたり高過ぎる場合は必ず電源を切ってから、入力電圧切換端子20の接続を変更して調整してください。

(5)　停電状態での動作確認の為、入力切換スイッチ11を非常入力側にします。入力および充電表示灯 (5,7) は消灯しますが、瞬時に停電動作となり出力し続けます。
出力電圧測定端子17にて出力電圧を確認してください。 AC97V ～103Vで正常です。

(6)　電源復帰時の動作確認の為、入力切換スイッチ11を商用側に戻します。瞬時にAC電源に切換わり（4）の状態に戻ります。全ての表示灯が点灯している事を確認してください。

注意	供給器を改造したり、乱暴な取り扱いによる損傷については補償できません。

▼ 運 転 時 の LED 等 の 表 示 （ ○＝点灯　×＝消灯）

・入力切換スイッチが商用側で入力ブレーカ19をONにすると，ケース底面の LED が次のように点灯します。

入力表示灯（緑）	出力表示灯（赤）	充電表示灯（橙）
○	×	○

・蓄電池ブレーカ14をONにすると、蓄電池23に充電が開始されます。 LED 表示は変わりません。

・出力ブレーカ21をONにします。出力コネクタ 2 より出力されます。
ケース底面の LED が次のように点灯します。

入力表示灯（緑）	出力表示灯（赤）	充電表示灯（橙）
○	○	○

・停電動作を確認する場合は、入力切換スイッチ11を非常入力側にするとインバータ動作が開始されて LED が次のように点灯します。

入力表示灯（緑）	出力表示灯（赤）	充電表示灯（橙）
×	○	×

・停電動作確認後は入力切換スイッチ11を商用側に戻して通常動作にしてください。

※停電動作確認状態を続けたままにすると蓄電池23の放電が進み、やがて動作が停止します。

▼ 運 転 停 止 の 手 順

(1)　蓄電池ブレーカ14を OFF にしてください。

(2)　出力ブレーカ21を OFF にしてください。

(3)　入力ブレーカ19を OFF 、入力切換スイッチ11を非常入力側にして全ての表示灯が消灯した事を確認してください。

定 期 点 検

※７ページの内観図を参照のこと

▼ 点 検 手 順（本器の性能維持の為“年に一度必ず“点検を行ってください。）

１年に１回以上は点検を実施してください。外部の損傷状態の確認と蓄電池の点検及びインバータ動作切換の点検（運転開始の手順 P9 参照）を実施します。

⑴ 外部の損傷状態の確認

- 筐体はステンレス製なので腐食等の問題はありませんが、塗装の剥れが著しい場合は補修してください。
- 筐体に大きなへこみや裂傷、開閉扉の閉まり具合に問題があった場合は筐体毎交換してください。
- 取付金具の固定ネジの締め付け具合を確認してください。

⑵ 蓄電池充電電圧

- 蓄電池ブレーカ14がONの状態時で蓄電池電圧測定端子15で測定する。
- 充電電圧が DC26V ～ 28V であれば正常。（外気温が25℃にてDC27.3± 0.4V）
  表示は以下の通り表示されます。

入力表示灯（緑）	出力表示灯（赤）	充電表示灯（橙）
○	○	○

⑶ 蓄電池電圧

- 蓄電池ブレーカ14を OFF にする。その後１分以上おいてから蓄電池電圧測定端子15で測定する。
- 蓄電池電圧が DC24V ～ 27V であれば正常。
- **測定後、蓄電池ブレーカ14を必ずONに戻してください。**
  表示は変わりません。

⑷ 出力電圧

- 出力電圧測定端子17で測定する。
- 出力電圧が AC97V ～103Vであれば正常。（商用入力AC100V時）
  表示は変わりません。

⑸ 停電動作

- 停電状態での動作確認の為、入力切換スイッチ11を非常入力側にして、出力電圧測定端子17で測定する。
- 出力電圧が AC97V ～103Vであれば正常。（実効値型テスターによる）
  表示は以下の通り表示されます。

入力表示灯（緑）	出力表示灯（赤）	充電表示灯（橙）
×	○	×

⑹ 最終確認

点検終了後、点検者は必ず入力切換スイッチ11を商用側、蓄電池ブレーカ14をONの状態にして、開閉扉の裏の『定期点検実施記録』に日付及び点検者の名前を記入してください。
記入が終わったら開閉扉を確実に締めてください。

⚠ 注意	**作業終了後は、入力切換スイッチ11が商用側、入力・蓄電池・出力ブレーカがすべて ON 、入力・出力・充電表示灯がすべて点灯していることを確認し、開閉扉を確実に締めてください。**

保 守 点 検

※７ページの内観図を参照のこと

▼　出力ブレーカが動作した場合

- 出力ブレーカ21が動作した場合は、負荷伝送路に異常（過大負荷、短絡など）があり機器を保護しています。
- 蓄電池ブレーカ14・入力ブレーカ19を OFF にして運転停止の手順に沿って無停電電源供給器を停止させ、出力側の異常を取り除いてください。異常を取り除かず無理に使用しますと、故障の原因になります。

▼　入力ブレーカが動作した場合

- 入力ブレーカ19が動作した場合は、入力回路に異常（過大電圧、落雷など）があり、機器を保護しています。
  AC100Vの入力電圧が正常範囲（AC90 ～ 110V）にあることを確認してください。
- 入力側に異常が有る場合は取り除いていただき、入力ブレーカ19をONにしてください。
  出力ブレーカ21及び蓄電池ブレーカ14を OFF にしても再度ブレーカが動作する場合は、使用を中止して弊社までお問い合わせください。

▼　蓄電池ブレーカが動作した場合

- 蓄電池ブレーカ14が動作した場合は、蓄電池回路またはコントロール部に異常（過大負荷、短絡など）があり、機器を保護しています。
- 運転停止の手順に沿って無停電電源供給器を停止させ、蓄電池側の異常を取り除いても再度ブレーカが動作する場合は、コントロール部の点検が必要です。使用を中止して弊社までお問い合わせください。

▼　発電機入力方法（非常入力時、AC100V）

本器の停電が４時間以上になると予想される場合、発電機によりAC100Vを給電して使用できます。AC100Vを確認の上、当社指定のメタルコンセントをAC100V非常入力４に接続し、入力切換スイッチ11を非常入力側に切換えて下さい。発電機入力になり、商用と同様の動作となります。

▼　コントロールユニットの交換手順

通常おこなう必要の無いことですが、停波させないでユニット交換をする手順を以下にします。

(1)　コントロール部12の動作切換スイッチ13を”保守”にする。

(2)　**蓄電池ブレーカ14を必ず OFF にする。**

(3)　コントロール部の各コネクタを外します。（停電検出コネクタ24を外すには11㎜のスパナが必要です。）パネルの固定ビスを外し、ユニットを取り出します。

(4)　交換用として用意した予備ユニットを本体に組み込み、固定ビスで固定してください。

(5)　**蓄電池ブレーカ14が OFF である事、動作切換スイッチ13が”保守”である事を確認してから**各コネクタを接続します。

(6)　蓄電池ブレーカ14をON、動作切換スイッチ13を”平常”にして通常の商用運転に戻します。入力・出力・充電動作各表示灯 (5,6,7) の点灯を確認してください。

(7)　確認の為、定期点検 (11 頁参照) をおこなってください。

LED 表 示 と 推 定 要 因

（○＝点灯、×＝消灯 ）

入力（緑）	出力（赤色）	充電 (橙色）	推定要因　　（◎＝正常）	
○	○	○	◎通常の商用運転	
			◎非常用電源で運転の時（AC100Vの非常用時）	
○	○	×	・コントロールユニットの故障 ・充電表示ランプの故障 ・充電回路の故障 ・充電表示灯の故障	
○	×	○	・出力ブレーカがトリップしている時 ・出力表示ランプの故障	
×	○	×	◎入力切換スイッチが非常入力	
			◎停電時動作中	
			・契約ブレーカがトリップしている時	
			◎入力切換スイッチが非常入力になっていて、 非常入力に電源が入力されていない時	
○	○	×	◎入力ブレーカが OFF で停電動作中	
×	×	×	**インバータ動作時**	・蓄電池ブレーカが OFF の時
				・インバータ部の故障
				・蓄電池の寿命
				・蓄電池コネクタの接続不完全
				◎過放電防止回路が動作
				・主回路部の故障
×	○	○	・入力表示灯の故障	

蓄 電 池 の 交 換 方 法

・蓄電池を交換する場合は、次の注意事項をご確認の上作業してください。

（１）蓄電池の交換時期については下表の期待寿命を目安におこなってください。

環境温度　＊１	２０℃	２５℃	３０℃
期待寿命　＊２	１２年	１０年	８年

＊ 1.環境温度とは本装置の設置場所の年平均温度

＊ 2.期待寿命とはメーカーのデータを元に計算した数値で、寿命を保証するものではありません

（２）蓄電池コードが破損、および圧着端子が腐食している場合、新品の蓄電池コードとお取替えください。

（３）蓄電池の交換は必ず 2 個共新品の電池と取り替えてください。

（４）適合した蓄電池（LHM-24-12 ／新神戸電機製）以外をご使用になるときは、弊社までお問い合わせください。

・ 交換作業は、次の手順で行います。（商用入力時に行なってください）

① コントロール部12、動作切換スイッチ13を”保守”に切換えてください。

② 蓄電池ブレーカ14を OFF にします。

③ 蓄電池コネクタ16から蓄電池コードを外してください。

④ 蓄電池固定金具を外し、蓄電池23を取り出します。液漏れをしていた場合は、本器の清掃を行ってから次の手順に進んでください。（※蓄電池は重量物〔約10.5kg〕の為、落下等安全に十分配慮して取り扱ってください。）

⑤ 蓄電池から、蓄電池コードを外します。

⑥ 蓄電池コードを新しい蓄電池に接続します。＋（赤）－（青）の極性を間違えないように注意してください。

⑦ 新しい蓄電池を蓄電池収納部に納めます。
この時コードを挟んだり、引っぱったりしないよう注意してください。

⑧ 蓄電池固定金具で蓄電池を固定します。

⑨ 蓄電池コードのコネクタ 2 個を蓄電池コネクタ16に接続します。

⑩ 蓄電池ブレーカ14は OFF で蓄電池電圧測定端子15で電圧を測定し、
規格内（DC24V ～ 27V）である事を確認してください。電圧が低い場合は電池および接続を再点検してください。

⑪ コントロール部12の蓄電池ブレーカ14をON、動作切換スイッチ13を”平常”にします。

⑫ 入力ブレーカ19を OFF にして、インバータ動作を確認してください。
（出力電圧を出力電圧測定端子17で測定してAC20～ 40V を確認してください。）

⑬ インバータ動作が正常に行われるのを確認後、入力ブレーカ19必ずONにしてください。

⑭　作業が終了したら、本器の開閉扉裏面の点検記録表に記録してください。

※蓄電池または蓄電池を搭載した本装置を長期間保管（６ヶ月以上）または運転停止した場合は、蓄電池が自己放電している可能性がありますので、定期的に通電（40時間以上）し蓄電池を補充電してください。１年以上無通電で補充電されなかった場合は新品に交換してください。

危険	蓄電池コードの取付作業は平坦な場所で行い、＋－端子間のショートや極性を間違えて接続することがないように注意してください。

▼ 蓄 電 池 組 込 説 明 図

蓄電池組込時の注意

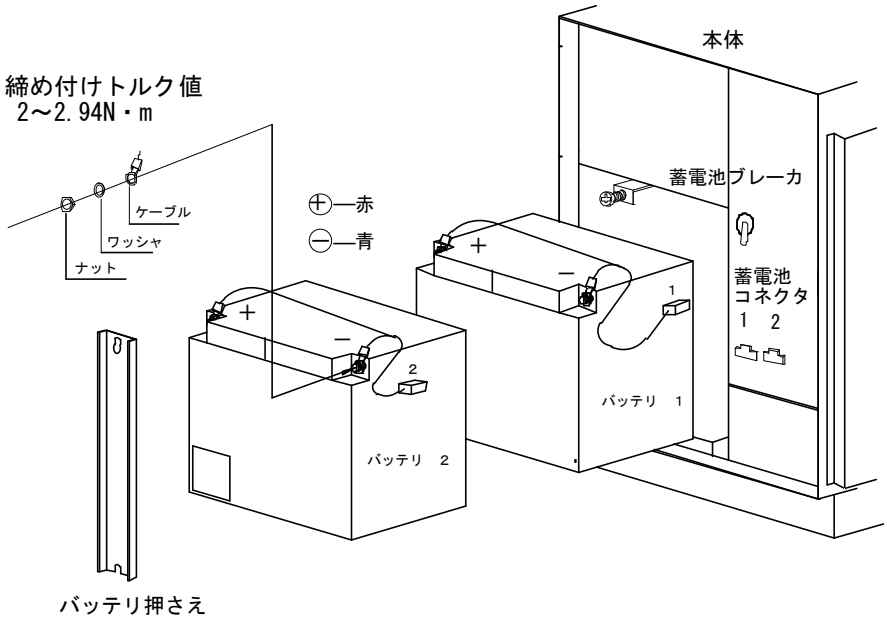
警告	・コントロールユニットの蓄電池スイッチが必ずOFFであることを確認してからこの作業をおこなってください。

・極性に注意して添付されているケーブルを図のように接続してください。（＋極 赤、－極 青）

・ケーブルを接続した蓄電池を図の配置にして組み込んでください。

・ケーブルのコネクタを本体の蓄電池コネクタの1,2（図参照）に合せてツメがロックされるまで差し込んでください。

・蓄電池押さえを取り付けてください。



注意	・装置の設置工事が完了しましたら 1. 取扱説明書の操作手順に従ってインバータ動作の確認をしてください。 2. 本体に底面の入力・充電・出力の表示灯が点灯していることを確認して蓄電池交換記録表に記入の上、扉を確実に閉めてください。

仕 様

項　目			規　格	備　考
出力容量		VA	１００	
停電補償時間		h	３０VA 出力時　　１０時間以上 ６０VA 出力時　　５時間以上 １００VA 出力時　　３時間以上	納入初期値（25℃にて）
定格・冷却方式			連続・自然空冷	
構造			ポール取付・防滴構造	ステンレス製（ SUS-304 ）
寸法		mm	４７５高×３００幅×３７５奥	
重量		kg	約４５	蓄電池重量を含む
入力	電源電圧	V	１φＡＣ１００±１０	AC95V,100V,107V入力切換タップ付
	電源周波数	Hz	５０／６０	
	消費電力	VA	充電初期時　１４１以下	AC100V入力時
			充電完了時　１２６以下	AC100V入力時
出力	出力電圧	V	商用時　AC100V± ３ %	AC100V入力時・負荷０～100%
		V	停電時　AC100V±3%	蓄電池動作時・負荷０～100%
	出力波形		停電時・矩形波	商用時・入力波形と同じ
	出力電流	A	１．０以下	
	出力方式		コネクタ接続	ケーブルは付属しない
	停電動作出力周波数	Hz	６０（±２%）	商用時は電源周波数と同じ
	アラーム出力		停電動作時にメイクする 無電圧接点出力	Ｆ型コネクタ出力
	切替時間	ms	８０以内	
蓄電池	種類		小型シール鉛蓄電池	
	規格		ＤＣ１２Ｖ２４Ａｈ（２０ＨＲ）	
	型式		LHM-24-12(新神戸）もしくは同等品	長寿命型
	構成		２直列	
	重量	kg	約１０．５／１個	
充電器	方式		自動フローティング充電	
	充電電圧	V	ＤＣ２７．３±０．４（25℃にて）	温度補正付
	充電電流	A	ＤＣ０．６±０．２	
	充電所要時間	h	約４０	
その他	耐雷性	kV	±３０（１．２×５０μｓ）	入力～機能アース間
	サージ減衰量		-30 ｄＢ（平衡）	入力－機能アース間（FTを除く）
			-20 ｄＢ（不平衡）	入力－線間
	絶縁耐圧	kV	ＡＣ１０以上１分間	入力～出力・機能アース間
	保護回路		ノーヒューズブレーカによる 充電器過電圧保護 蓄電池過放電保護	
	環境温度	℃	－１０～＋４０	
	環境湿度	%	３０～９０	ただし結露しないこと。
	塗装色		協会色３号	マンセル 2.5 B 7/0.5 近似

その他

▼ 品 質 保 証

本供給器の品質保証期間は、納入後 1 年以内です。その間に発生した弊社に起因する不具合については、無償で修理、取り替えをさせていただきます。ケース塗装の剥離、錆については海岸沿い、重工業地帯、火山地帯、鉄道線沿いを除く標準設置場所において、保証期間内に有害な剥離、錆が認められた場合、無償にて程度に応じた補修用塗料を支給させていただきます。

▼ 廃 棄 時 の ご 注 意

・TV共聴用無停電電源供給器の廃棄は、産業廃棄物となりますので産業廃棄物処理の許可を受けた業者に処理を依頼して下さい。

・内蔵の蓄電池はケースから取り出し、端子部の配線は全て取り外し、蓄電池単体での処分となります。

・蓄電池の処理は、法的な規制を受けますので、必ず専門業者、購入業者、または蓄電池のメーカなどに依頼して下さい。

なお、本マニュアルの記載内容は2009年10月現在のものです。内容については予告無く変更することがあります。